

認知症に効く薬には どんなものがある??

Q 認知症を治すことができる薬はありますか。

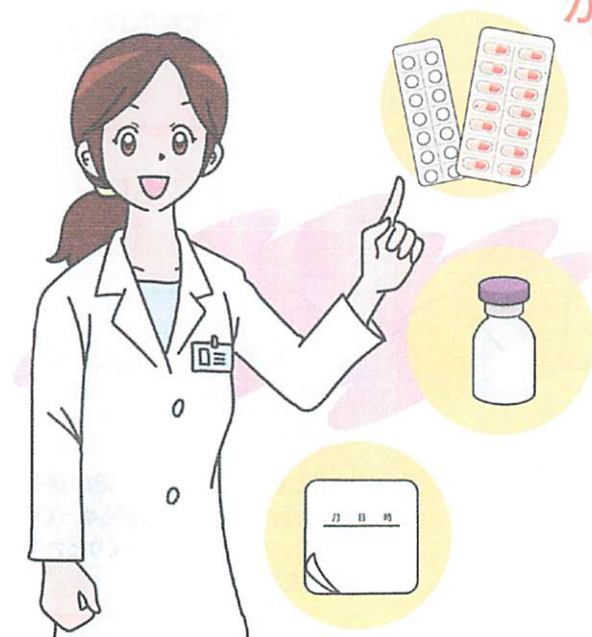
A 根本的に治せる薬はありませんが、
進行を遅らせる薬はあります。

認 知症にはさまざまな原因、症状や治療法が異なります。

認知症全体の7割程度を占めるアルツハイマー型に対しては、症状を和らげたり、進行を遅らせたりできる治療薬が数種類あります(表参照)。

いずれも年月が経つと効き目が薄れてきますが、**早めに服用を始めることで、より長期的な効果を期待できます。**

中でも使用例が多い薬が「ドネペジル」です。脳の神経伝達物質を増やす作用があり、もの忘れが減る、会話が増えるなど



うらかみかつや
指導 浦上克哉

鳥取大学医学部
認知症予防学講座・教授、
日本認知症予防学会理事長

の効果が見込めます。昨年4月にはこのドネペジルをパッチタイプにした「アリドネパッチ」という新製品が登場しました。認知症の人は薬を飲み忘れることが多いのですが、貼るタイプであれば日付を表面に書いておけるため、服薬管理しやすくなるメリットがあります。

ほかに「ガラントミン」「リバスチグミン」「メマンチン」などの薬があり、医療現場では症状に応じて使い分けています。

昨 年9月には「レカネマブ」という新薬が承認され、大きなニュースになりました。アルツハイマー型の原因とされる物質を脳から除去して進行を抑える薬

で、進行スピードを約27%抑制する効果が認められています。症状が極めて初期段階の人と、その手前のMCI(軽度認知障害)の人が対象で、症状が進んでいたら効果は乏しいとされています。

投与の対象となる人の診断が難しく、費用も高額になることから、新薬を扱えるのは、現時点ではごく一部の専門医に限られています。

認知症の治療薬の研究は世界中で進められていますが、現状では薬による完治は見込めません。運動や知的活動、周囲の人とのコミュニケーションなど、生活習慣を改善して発症や進行予防に取り組むことも大切です。

アルツハイマー型に有効な薬

一般名	主な作用と特性	使用できる段階
ドネペジル	<ul style="list-style-type: none"> 量を調整しやすく、副作用が少ない レビー小体型認知症にも使用できる パッチタイプの新製品が登場 	軽度 中度 高度
ガラントミン	<ul style="list-style-type: none"> 脳の神経伝達物質を増やし、情報を伝わりやすくする 効果が比較的顕著に現れる イライラや興奮を鎮める作用も 	軽度 中度
リバスチグミン	<ul style="list-style-type: none"> パッチタイプで貼り忘れをチェックしやすい 	軽度 中度
メマンチン	<ul style="list-style-type: none"> 害を及ぼす物質が過剰に神経細胞に侵入するのを防ぐ 上記の3薬と併用できる イライラや興奮を鎮める作用も 	中度 高度
レカネマブ	<ul style="list-style-type: none"> アルツハイマー型の原因とされる物質を脳内から除去する 発症前か極めて初期段階での投与が効果的 	MCI 軽度 初期段階のみ